



GPIF の国内株式運用機関が選ぶ「優れた統合報告書」と「改善度の高い統合報告書」

年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）は、国内株式の運用を委託している運用機関（以下、運用機関）に対して、「優れた統合報告書」と「改善度の高い統合報告書」の選定を依頼しました。

今回も運用機関に対して、それぞれ最大 10 社の選定を依頼し、2 ページのリストの通り、「優れた統合報告書」については延べ 77 社（前回 77 社）、「改善度の高い統合報告書」については延べ 100 社（前回 94 社）が選ばれました。

そのうち、多くの運用機関から「優れた統合報告書」として高い評価を得た企業は以下の通りでした。「改善度の高い統合報告書」については、＜得票運用機関数別企業数の分布＞の通り 3 機関以上から票を得た企業はなく、幅広い企業が選定されました。

また今回、新たに統合報告書のご発行を検討されている企業も含め、統合報告書作成のご参考にさせていただくことを目的として、「統合報告のなかで運用機関が特に重視する項目や記載を充実してほしい項目」の回答も依頼し（最大 3 項目）、その内容を 5 ページ以降に記載しています。

【4 機関以上の運用機関から高い評価を得た「優れた統合報告書」】

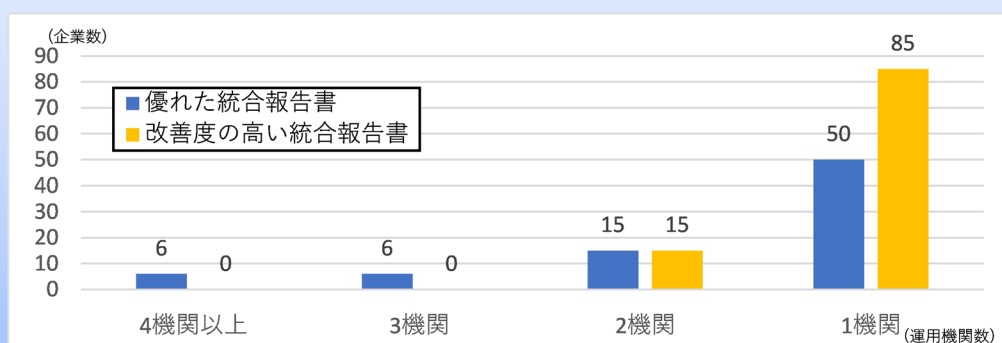
✧ 日立製作所	5 機関	✧ 東京海上ホールディングス	5 機関
✧ リコー	5 機関	✧ オムロン	4 機関
✧ 三菱UFJフィナンシャル・グループ	5 機関	✧ 伊藤忠商事	4 機関

【4 機関以上の運用機関から高い評価を得た「改善度の高い統合報告書」】

✧ 該当企業なし

* 統合報告の定義は運用機関によるため、統合報告書という名称でなくても、「統合思考」に基づいて情報開示が行われていると各運用機関が判断すれば選定される場合もあります。運用機関数が同じ場合は証券コード順。

＜得票運用機関数別企業数の分布＞



【GPIFの運用機関が選ぶ「優れた統合報告書」】

コード	社名	得票数	コード	社名	得票数	コード	社名	得票数
1925	大和ハウス工業	2	4612	日本ペイントホールディングス	1	6981	村田製作所	1
1928	積水ハウス	1	4751	サイバーエージェント	1	6997	日本ケミコン	1
2181	パーソルホールディングス	1	4902	コニカミノルタ	1	7272	ヤマハ発動機	2
2502	アサヒグループホールディングス	1	4911	資生堂	1	7752	リコー	5
2503	キリンホールディングス	1	4967	小林製薬	1	7905	大建工業	1
2607	不二製油グループ本社	2	5201	A G C	1	7951	ヤマハ	2
2768	双日	2	5401	日本製鉄	1	8001	伊藤忠商事	4
2802	味の素	3	5411	ジェイ エフ イー ホールディングス	1	8012	長瀬産業	1
2871	ニチレイ	1	6005	三浦工業	1	8015	豊田通商	1
3086	J. フロント リテイリング	2	6098	リクルートホールディングス	3	8031	三井物産	1
3407	旭化成	2	6268	ナブテスコ	2	8035	東京エレクトロン	1
3880	大王製紙	1	6301	小松製作所	1	8058	三菱商事	1
4005	住友化学	1	6361	荏原製作所	3	8113	ユニ・チャーム	1
4021	日産化学	1	6367	ダイキン工業	1	8252	丸井グループ	2
4063	信越化学工業	1	6457	グローリー	1	8306	三菱UFJフィナンシャル・グループ	5
4183	三井化学	2	6471	日本精工	1	8309	三井住友トラスト・ホールディングス	1
4188	三菱ケミカルホールディングス	1	6479	ミネベアミツミ	2	8591	オリックス	2
4204	積水化学工業	1	6501	日立製作所	5	8601	大和証券グループ本社	1
4307	野村総合研究所	3	6645	オムロン	4	8725	MS & ADインシュアランスグループホールディングス	1
4452	花王	2	6674	ジーエス・ユアサ コーポレーション	1	8766	東京海上ホールディングス	5
4506	大日本住友製薬	1	6702	富士通	1	9020	東日本旅客鉄道	1
4507	塩野義製薬	2	6724	セイコーエプソン	1	9086	日立物流	1
4523	エーザイ	1	6758	ソニーグループ	3	9101	日本郵船	3
4536	参天製薬	1	6762	T D K	1	9433	K D D I	1
4544	H. U. グループホールディングス	1	6841	横河電機	1	9531	東京瓦斯	1
4568	第一三共	1	6902	デンソー	2			

*上記は運用機関から「優れた統合報告書」として選ばれた企業の一覧（証券コード順）

色塗りされている企業は、複数の運用機関が選定

【GPIFの運用機関が選ぶ「改善度の高い統合報告書」】

コード	社名	得票数	コード	社名	得票数	コード	社名	得票数
1812	鹿島建設	1	4901	富士フィルムホールディングス	1	7381	北國フィナンシャルホールディングス	1
1925	大和ハウス工業	1	4911	資生堂	1	7518	ネットワンシステムズ	1
1928	積水ハウス	2	4927	ポーラ・オルビスホールディングス	1	7701	島津製作所	1
1954	日本工営	1	5019	出光興産	1	7733	オリンパス	1
1963	日揮ホールディングス	2	5108	ブリヂストン	2	7735	S C R E E Nホールディングス	2
2201	森永製菓	1	5201	A G C	1	7741	H O Y A	1
2269	明治ホールディングス	1	5233	太平洋セメント	1	7752	リコー	1
2282	日本ハム	1	5401	日本製鉄	1	7912	大日本印刷	1
2602	日清オイリオグループ	1	5406	神戸製鋼所	1	8031	三井物産	1
2607	不二製油グループ本社	2	5411	ジェイ エフ イー ホールディングス	2	8056	日本ユニシス	1
2768	双日	1	5631	日本製鋼所	2	8058	三菱商事	1
2811	カゴメ	1	5741	U A C J	1	8113	ユニ・チャーム	1
2874	横浜冷凍	1	5947	リンナイ	1	8242	エイチ・ツー・オー リテイリング	1
3099	三越伊勢丹ホールディングス	1	6005	三浦工業	1	8283	P A L T A C	1
3116	トヨタ紡織	1	6201	豊田自動織機	1	8306	三菱UFJフィナンシャル・グループ	2
3289	東急不動産ホールディングス	1	6361	荏原製作所	2	8316	三井住友フィナンシャルグループ	1
3382	セブン&アイ・ホールディングス	1	6367	ダイキン工業	1	8591	オリックス	1
3626	T I S	1	6407	C K D	1	8601	大和証券グループ本社	2
4061	デンカ	1	6479	ミネベアミツミ	1	8630	S O M P Oホールディングス	1
4091	日本酸素ホールディングス	1	6501	日立製作所	1	8830	住友不動産	1
4182	三菱瓦斯化学	1	6506	安川電機	1	9005	東急	1
4202	ダイセル	1	6508	明電舎	1	9024	西武ホールディングス	1
4204	積水化学工業	1	6702	富士通	1	9104	商船三井	1
4206	アイカ工業	1	6724	セイコーエプソン	1	9142	九州旅客鉄道	1
4324	電通グループ	1	6758	ソニーグループ	1	9201	日本航空	1
4403	日油	1	6841	横河電機	1	9301	三菱倉庫	1
4443	S a n s a n	1	6925	ウシオ電機	2	9432	日本電信電話	1
4506	大日本住友製薬	1	6963	ローム	2	9501	東京電力ホールディングス	1
4516	日本新薬	1	6981	村田製作所	1	9508	九州電力	2
4536	参天製薬	1	7004	日立造船	1	9513	電源開発	1
4568	第一三共	1	7202	いすゞ自動車	2	9735	セコム	1
4612	日本ペイントホールディングス	2	7259	アイシン	1	9793	ダイセキ	1
4689	Zホールディングス	1	7272	ヤマハ発動機	1	9843	ニトリホールディングス	1
4849	エン・ジャパン	1						

*上記は運用機関から「改善度の高い統合報告書」として選ばれた企業の一覧（証券コード順）

色塗りされている企業は、複数の運用機関が選定

【4 機関以上の運用機関から選ばれた「優れた統合報告書」へのコメント】

○日立製作所

- ・トップのコミットメントが非常に明確であり、Lumada 事業の拡大と事業ポートフォリオの強化によって企業価値の拡大を目指す方針が記されている。E や S についても具体的な項目が開示されている。
- ・セクター別に目標 R0IC（中計）と現状を明示。C00 の Lumada 事業の戦略ページもよかった。財務・非財務の KPI が明確であり、両視点で企業価値拡大ストーリーが出来ている。
- ・企業価値向上のストーリーが明確で、インプットとアウトプットの循環も理解がしやすい。また、当社戦略の柱となる Lumada 事業やその戦略の基盤となる取組みなどが ESG にどのように結びついているかが理解しやすく記述されている。さらに、過去中計と当社の戦略の柱となる Lumada 事業との関係が記述されている点も理解が進む。
- ・価値創造プロセスが明瞭でかつ各事業戦略に紐づけられており、環境・人材・ガバナンス等記載のバランスも良い。事業ポートフォリオ見直しの経緯や、キャッシュアロケーション、成長投資等財務面の情報も充実。
- ・複雑な事業形態ながら、社会イノベーションを軸に分かりやすくまとめられている。資本コストを意識した R0IC 経営の推進においては、収益性向上に向けた主なアクションアイテム例を記載しており、理解しやすい。

○リコー

- ・創業の精神である三愛精神「人を愛し、国を愛し、勤めを愛す」を原点とし、デジタルサービスの会社として顧客の生産性向上や効率化を実現し、その先の創造的な仕事を支えるというビジョン、具体的な道筋が一貫した形で描かれている。定量情報も豊富に盛り込まれており、説得力がある報告書となっている。
- ・中期経営計画で目指す姿が具体的かつ詳細に記載されている。TCFD レポートと併せて読むことで、同社のサステナビリティに対する取組みの歴史と緻密な分析、社内への深い浸透が理解できる。
- ・成長ストーリーが極めてシンプルかつ明確に記載されている。また、気候変動に関わる開示が充実している点など積極的な開示姿勢が随所にみられる記載となっている。
- ・「デジタルサービスの会社」に向けた価値創造プロセスと、マテリアリティの特定や KPI が明確で分かりやすい。気候変動に対する機会の実績を開示する等、定量的な情報も豊富で理解しやすい。
- ・事業戦略を ESG 課題に紐づけて説明することにより、価値創造プロセスへの理解が容易になっており、ポートフォリオマネジメント戦略にも繋がっている。加えて、投資家が開示を期待する ESG 項目がすべて網羅されている。

○三菱UFJフィナンシャル・グループ

- ・パーパスを明確にし、それを全社に浸透すべく CEO メッセージを中心に会社の想いが報告書全体からも感じられる。とくに CEO メッセージは投資家に寄り添う姿勢で課題もあぶりだしながら進む方向を示している点が好印象。
- ・『1 年後、「MUFG は変わったな」と思われたい』という CEO メッセージの締めが印象的。トップが自らの言葉で課題認識を語り、後続のコンテンツでそれら課題に対する具体的な取組みを丁寧に解説する構成が秀逸。
- ・トップのメッセージとして、パーパス制定の背景や課題認識が率直に語られている。「MUFG のいまを読み解くポイント」として 7 つのキーワードが挙げられ、その詳細説明が参照先として記載されるなど、読みやすさに配慮された構成になっている。
- ・社長メッセージでも ROE 向上への課題意識が際立っている印象。特に ROE 未達が 2 年連続だったという反省から、利益成長だけに依存せず、利益・経費・RWA(リスクアセット)の 3 つのドライバーで ROE 向上を目指すという方向性が明確。TCFD の情報開示も着実に拡充された。

- ・CEO の力強いメッセージが統合報告書に一貫して表れており、全社で財務・非財務面の価値向上に取り組む様子が伝わる。「1 年後、MUFG は変わったと思われたい」という CEO のメッセージには期待したい。

○東京海上ホールディングス

- ・パーパス起点に価値創造ストーリーや中期経営計画が高い説得力で記述されている。熱意と自信にあふれておりステークホルダーを動かす力も感じる。
- ・グローバル経営チームによるグループ一体経営とパーパス経営によって持続的な企業価値拡大とグローバルな競争力強化を目指すことが明確。CFO メッセージや中期経営計画から高度なリスク管理が理解できる。
- ・大きく構成を変えた昨年版を踏襲しつつ、長期展望に焦点。メッセージが明確で訴求性が非常に高い。情報量は多いが可読性が高い。
- ・創業以来不変のパーパスと、事業を通じて培ってきた強み・経営資源を軸に、同社を取り巻く事業環境や課題認識を踏まえて経営の方向性が示されている。企業価値向上に向けた事業戦略・方針に納得感がある。
- ・パーパスストーリーとして自社の存在意義について説明し、価値創造アプローチにおいては、ビジネスモデルを通じて付加価値を生み出すことが示されている。過去・現在・未来のつながりも分かりやすく表現されている。

○オムロン

- ・CEO や CFO 等のインタビューの内容が濃く、読み応えがある内容となっており、企業価値創造のストーリーも明快な構成となっている。また、ガバナンスの開示も、体制・制度の考え方等も含めて充実した記述となっている。
- ・サステナビリティへの取組みを事業価値につなげていくための考え方が理解しやすい。また、中長期的な方針だけでなく、成長を実現するための短期的な具体策とストーリーをもって語られている点も評価。
- ・企業理念の実践に向けた独自の取組みを詳細に記載し、その取組みが企業価値向上に寄与していることが理解しやすい。また、来年度から始まる次期長期ビジョンの方向性も分かりやすい内容。
- ・設定された各マテリアリティに対する目標が、中期経営計画の事業戦略と優れて整合的。また、ROIC を評価軸とするポートフォリオマネジメントの考え方も精緻に示されている。

○伊藤忠商事

- ・価値創造ストーリーの発信に、従来とは違ったアングルからの捉え方も示し納得度を加速させたレポートとなっている。幅広いステークホルダーを読み手として想定しており、誰でも読める作りになっている点も評価。
- ・「企業価値」を図式化し明確化した点。トップの力強いメッセージとコミットメント経営に加え、子会社ガバナンスへの言及などもあり、お手本となるべき統合報告書である。
- ・事業戦略、キャッシュアロケーション、サステナビリティなど各種の論点が企業価値算定式に関連付けて語られている。通読して一貫性が高くかつストーリー性のある内容となっており、統合報告書として高いレベルに昇華されている点が評価できる。企業価値算定式を基調とした情報の再整理が行われている。企業理念「三方よし」のステークホルダー経営視点へ昇華がなされている。広範かつ複雑な事業を簡潔かつ一覧性高く説明。会長自らがペン入れし、投資先経営陣にも配布する等実践的な活用。
- ・長期ビジョンや価値創造プロセス、ビジネスモデル、マテリアリティ等にストーリー性があり、強みや投下資本との結合性も明確。企業価値向上を意識した構成になっており、投資家との対話ツールとして高い水準にある。

【4 機関以上の運用機関から選ばれた「改善度の高い統合報告書」へのコメント】

○該当企業無し

【統合報告のなかで運用機関が特に重視する項目や記載を充実してほしいと考えている項目】

項目	具体的な内容・理由
トップメッセージ	トップ自らの言葉で語られていること、普段の説明会等での発信と整合的であることが重要。ステークホルダーへ向けたメッセージとして企業価値やサステナビリティに関する考えを明確に示すことが求められる。
	変化の時代にあって、今後一層トップのメッセージはその重要性を増すと見ている。
	当年度の取組み紹介だけではなく、経営哲学、経営判断の背景など CEO ならではのコメントを迫力、臨場感を持って伝えて欲しい。
	<p>【内容】長期的な視点に立った会社の方向性、課題認識、経営理念、パーパス、それらに基づく長期ビジョンと持続的成長戦略について社長の熱意が伝わるメッセージ、目標達成に向けた強い意思。</p> <p>【理由】経営トップ自身がビジョン・マテリアリティ等を熱意を持って語ることが、その企業全体の実態・やる気に直結しているため。形式的な対応なのか、経営トップの本気度を判断する上で重視。</p>
	項目毎の重要性は企業の置かれた環境によって異なる。トップメッセージを通じて投資家は企業のポテンシャルや課題について優先順位をつけて認識できる。最も個性を出してほしい項目。
トップマネジメントのメッセージ（経営理念等）	<ul style="list-style-type: none"> ・中長期的な企業価値向上に向けたトップ自身の熱い思いが伝わるメッセージが掲載されている。 ・「目指す姿」に向けての課題認識と取組みが掲載されており、「サステナビリティ」、「CSV 経営」などへ具体的に言及する内容となっている。
トップメッセージ・社外取締役のコメントもしくは対談	企業の現状および将来見通しに関してトップ層の認識を確認するため。経営陣のリーダーシップ、取締役会の実効性等、ガバナンスの有効性の評価において参考とするため。
社外取締役インタビュー	<p>【内容】企業が抱える課題認識に対する提言、マネジメントに対するコミット、各種委員会での役割、取締役会実効性評価（名称通り“実効性”がわかる記載に努めてほしい。社外取締役からの指摘事項、それに対するアクションプランを特に重視している）</p> <p>【理由】社外取締役コメントは社外取締役の課題認識の有無（開示されない場合はその消極的な姿勢も評価対象）の確認の他、取締役の実効性評価にもつながるため。</p>

項目	具体的な内容・理由
価値創造プロセス	<p>【内容】メガトレンドを見据えた社会課題を明確にし、その社会課題に取り組むことによりどのような社会便益を創出し業績成長にリンクさせるか。</p> <p>【理由】メガトレンドに言及することで企業のグローバル視点、未来志向を確認することができる。2050年（場合によりさらに先）の市場に対する考え方を示す企業も出始めている。</p>
価値創造プロセス・ビジネスモデル	中長期のビジョンを達成する上でどのようなビジネスモデルを構築しているのか、そのためにどのようなリソースの投入（インプット）が行われているのか、それがなぜ当社だからこそできるのか、ストーリー性をもって伝えて欲しい。
	統合報告書において根幹となる情報と認識しており、当項目についての企業の考え方やメッセージを如何に効果的に投資家に伝達するかが重要と考える。理念や実績の報告に留まらず、フォワードルッキングな観点からも、長期的に付加価値を生み出すプロセスを示すことが重要と考える。
	ステークホルダーが企業の持続的な価値向上に対する理解を深めるために重要。パーパスやありたい姿、そこから導かれるマテリアリティ、KPI、中期計画等が、結合性とストーリーを持って表現されることを期待。
価値創造プロセスの提示（持続的企業価値向上に向けて）	<ul style="list-style-type: none"> ・中長期の市場感に基いた「目指す姿」を示した上で、持続的で納得性のある価値創造プロセスを明確に提示している。 ・価値創造プロセス提示にあたって、「リソース（経営資源）」を客観的に分析するとともに、「マテリアリティ」を併記している。
企業理念を実現するための価値創造プロセス	<ul style="list-style-type: none"> ・企業理念実現のため、企業が各資本を有機的に結び付けて、どのように価値創造しているのか知りたい。 ・そのため、企業の独自性を踏まえ、投入資本、ビジネスモデル、アウトカムについて、簡潔に記載してほしい。
経営理念・マテリアリティ・価値創造プロセス	歴史的経緯も含む組織としての経営理念（パーパス・ビジョン・ミッションなど）の強さ、三つの項目の一貫性と整合性、従業員や主要取引先など企業価値向上を担うステークホルダーを動かすストーリーとしての力の有無を重視。
企業理念・ビジョン・歴史	企業がどのような価値観に基づき経営されているか、また様々な時代を通じてどのような成功と失敗を重ね、その結果として現在のビジョン・事業ポートフォリオを有するに至ったかを把握するため。

項目	具体的な内容・理由
コーポレート・ガバナンス	取締役会議長による当社のガバナンスの在り方、当年度の取締役会の主な議論内容、社外取締役から見た当社像。
	持続的な企業価値向上を目的に、①取締役会の体制充実、②スキルの選定、③株主の代表としての社外取締役の活動、④株主とのセームボート構築、⑤納得感のある実効性評価、等がなされていることを明示してほしい。
	環境(E)・社会(S)に関連する委員会等の体制図も含め、自社のガバナンス設計に関する詳細と、その実効性評価についての開示が好ましい。必ずしも各種委員会があるべきというわけではなく、自社の目指すガバナンス体制とそれに対する試み、改善点等の検証が行われているか、確認できると尚良い。
	社外取締役の登場を含め記載が充実してきている一方で、取締役会の実質面については外形標準を超えた実際の議論や課題など本音の部分を引き出すような工夫がなされることが望ましい。
	改訂コーポレートガバナンス・コードに沿った内容か。取締役会のスキルマトリクス等。
CFO による財務戦略	資本コスト、資本効率への言及も含めた財務戦略が示されることが重要。バランスシートの望ましい姿、キャッシュフローの創出力や活用方針等について明確なメッセージを記載していただく必要があると考えている。
資本コストを意識した中長期的な財務戦略	中長期的な経営目標を達成するために、どのように資金を調達し、配分していくかが重要であると考えため、資本コストを意識した財務戦略を記載してほしい。
資本政策	明確な資本政策。資本構造の理解、資本コスト、投資と還元のバランス等
財務と非財務情報の統合（将来的に財務価値化する非財務情報、ストーリー）	長期投資家ほど非財務情報を重視している。非財務情報を「将来の財務価値・企業価値につながるもの」と捉えた上で、これまでの経営の結果としての財務情報と統合して企業価値向上のストーリーが示されることを期待。
MD&A タイプの財務分析と資本効率性	統合報告書は企業価値を総合的に判断するための最重要ツールの1つ。ESGの強化と並行して、財務戦略・資本政策関連の開示強化にも前向きに取り組んでいただきたいと考える。
自社のマテリアリティ	自社特有の業務運営を鑑みたマテリアリティを特定、評価指標及び目標値の設定と、最終的には実績値に対するモニタリングを実施し、取締役会からの監督機能を含めた体制作りについての開示が好ましい。
自社のマテリアリティ・中期経営計画	企業の持続的な成長に向けて重要な要素について確認ができ、それらがなぜ重要なのかという背景や考え方、それら項目に付随する具体的なアクションの紐づきを確認するため。

項目	具体的な内容・理由
マテリアリティの特定と中長期 KPI の設定	投資家との対話においては、ESG の個別テーマの取組みにつながるため、特に重視している。引き続き改善・強化を期待している項目。
中期経営計画	売上・利益のみならず、資本収益性や配当計画、キャッシュフローなどバランスシートにも目を向けた数値目標を置いて頂けると高く評価しており、また他の投資家の投資意欲も呼び込むと捉え注目度が上がる。ワンストップ性の観点で、中計も単独での開示に加えて統合報告で再掲することは意義があると思う。中長期（5-10 年）を見据えた大きな方向性を語って頂きたいと考えている。
	財務情報、非財務情報の両視点から中期経営計画が描かれているか。
経営戦略・中期経営計画・事業説明	価値創造ストーリーの実現に向けて、係数目標を含む具体的な戦略や施策に落とし込めているかどうかを確認することで、実効力をチェックする。
経営戦略とサステナビリティ活動の結合性	<ul style="list-style-type: none"> ・稼ぐ力や価値創造の持続性が重要であり、持続性を考えるうえでサステナビリティの取組みが重要と考えている。 ・自社のマテリアリティを整理し、経営戦略と関連させた取組みが記載されていると分かりやすい。
CSR/ESG 経営の説明（CSV 経営）	<ul style="list-style-type: none"> ・ CSR/ESG 経営(CSV 経営) の実践に向けたコミットメントを提示するとともに、推進体制、責任者、PDCA サイクルによるチェックなどを掲載している。 ・ 企業価値向上の視点や優先順位を考慮した「マテリアリティ」を特定し、特定プロセスとともに開示している。
サステナビリティへの取組み	あらゆる経済活動において、ESG の要素を含む中長期的な持続可能性に配慮することは最早企業にとって不可欠の取組みと考える。外部環境の変化やステークホルダーとの関係性に配慮しつつ、企業内のあらゆる資本を有効に活用し、リスクの特定とビジネス機会を捕捉する姿勢を確認するために重視している。
	2050 年のカーボンニュートラルに向けた世界的な動き/資本市場の関心の高まりの中で、GHG 排出量削減に向けた具体的な計画、目標を可能な限り開示して欲しいため。できれば Scope1-3 についてそれぞれ具体的な現状の数値と削減目標を早期に開示して欲しい。GHG 排出量の測定・削減目標の設定、TCFD への加入有無、 サプライチェーン等も含めた具体的なカーボン削減施策、そのほか希少鉱物やパームオイル、カカオ等業種特性を踏まえた原料トレーサビリティへの取り組みなどを記載してほしい。
競争優位性	利益の源泉といえる競争優位性を、任意開示資料である統合報告書の紙面で十分に解説して頂きたい。

項目	具体的な内容・理由
外部環境分析・ 競争優位性	非財務も含めたリソースの投入がどのような競争力を生んでいるのかというアウトプットまで説明して欲しい。たとえば、特許数や従業員研修の内容や頻度の開示だけではなく、それが当社にとってどのような差別化につながっているか、つなげていきたいかというところまで説明して欲しい。
非財務資本に対する考 え方・取組み内容の情 報開示強化	長期投資を進める中で「非財務資本」の重要性が高まっていると強く認識している。特に自然資本と人的資本に関する情報開示の充実に期待している。
データ関連 (財務・非財務)	財務面ではセグメント別の売上、利益、収益性、資本効率が長期で一覧できると非常に有用。特に有価証券報告書の定型フォーマット以上の長期、10-20年分を掲載頂けると企業の長期趨勢と変化のきっかけを追うことができ助かる。 非財務については、事業特性上追っておくべき KPI や ESG への取り組みが数値開示されていると有難い。
従業員エンゲージメン ト	S の中で最も重要なステークホルダーの一つである従業員に関して、どのようなエンゲージメントを行っているか、従業員サーベイ結果なども含め開示をお願いしたい。

以上